



通信

HP 学校だより
R4. 11. 1
NO. 26
文責 伊藤美佳

遊びの中の異学年交流より

気候が良く、外遊びをする子どもたちが多くなりました。5年生、4年生の子どもたちがよく遊んでいるのが「てこてん」です。ソフトテニスボールを手で打ち、相手のコートに入れるという遊びです。保護者の方の中には、子どものころに遊んだという方もみえるのではないのでしょうか。他には、ドッジボールやジャングルジムで鬼ごっこ、遊具を使つての遊び、ビオトープや側溝でのザリガニつりなど、子どもたちは様々な遊びを楽しんでいます。

そんな子どもたちの様子を見てみると、異学年で交わることはあまりなく、だいたい学年で遊んでいることが多かったように思います。しかし、最近、他の学年の子が遊んでいるところでも、「入れて」と言つて一緒に遊べる子たちが増えてきました。異学年で遊んでいる様子を見ると、上の学年の子たちが、下の学年の子にやり方を教えたり、一緒にやったりしています。こういう交流から、「あこがれ」の姿がたくさん見られると感じ、うれしくなりました。中には、「校長先生一緒にやろう。」と誘ってくれる子どもたちもいて、一緒に遊ぶことから見えるすてきな一面をたくさん感じます。そんな時には、ついついたくさんの人にお話したくなります。

遊びの中の子どもたちは、問題が起きると自分たちで解決しようと考え、行動しています。正論を言う子、自分の意見を通そうとする子、その様子を見ていて丁度いい「塩梅」を提案する子など、子どもたち自身で社会性を身につけていることが分かります。こういった自分たちで解決していく力や折り合いをつける力が子どもたちの未来に大きく役立つのだと考えます。頭では分かっている、実際にその場になってみないとできないこと、ありますよね。

また、下学年の子が困っていれば、上学年の子たちが何とかしてあげたいと行動しています。通学途中にけがをした子がいれば、付き添ってくれたり、すぐに報告してくれたりします。一斉下校で、1年生の子のランドセルカバーのひもが切れてしまったとき、同じ班の2年生の子が切れたひもを上手に使つてランドセルに結びつけてくれていました。たくましく生きる子どもたちの姿に触れると、元気をもらえます。以前、卒業生の方から「1年生の時、通学途中で歩きたくなくなって泣いていたら、高学年の子がおんぶして登校したことがあったなあ。」という話を聞いたことがあります。誰が言うともなしに脈々と受け継がれている豊坂っ子のすてきな一面だと思いました。



すてきな俳句をありがとうございます

昨年度より「トヨサカ通信」を始めました。通信の裏には、子どもたちに「考える」おもしろさや「できた」喜びを感じてほしくて「チャレンジクイズ」を載せています。そのクイズをお孫さんと一緒に考えてくださる方がいます。その方は、時折俳句をくださいます。最初にくださった俳句が

難問の クイズ睨みて 夜長し

でした。お孫さんとともに考えてくださる様子がわかり、うれしくなりました。最近の俳句は、

すすきの穂 雑草のなか 迷路かな

ユスモスの お花畑に 迷い込み

ナス迷路をしながらの一句です。このように、秋の夜長を子どもたちとともにクイズを解いてみてはいかがでしょうか。

